

ワシントン日本語学校(補習授業校)

本校は1958年に開校された世界で一番長い歴史をもつ日本語補習授業校です。現在はワシントンDC近郊の借用校で毎週土曜日に幼稚部から小学部、中学部、高等部までの約700名が学んでいます。国語、算数(数学)を中心に学年によっては理科、社会、高等部では小論文の授業が行われています。月曜から金曜までは現地校、土曜日は日本語学校で学ぶため、子どもたちはもちろん保護者も大きな負担を強いられる中、日本で行われる教育内容を身につけようと懸命に取り組んでいます。もともと保護者が海外勤務となった子女が、帰国した際に日本の学校に順応しやすいように主に学力面の準備・サポートをするために設立された学校ですが、近年は長期滞在者や永住者が7割~8割となって学校の在り方も変化せざるを得ない状況です。日本語が第2言語という生徒も増え、日本語を使いこなす力の差が大きくなっている現状にどう対応するかが北米の多くの補習校の課題と言えます。そこで国語の学習が難しくなる小学校3年生から、日本語力によって2コースに設定した「国語科コース別学習」を取り入れ、意欲と充実感の向上を目指しています。



運動会は儀式以外唯一といっていいほどの行事です。



1 学期終業式の様子

アメリカの首都名が付けられた補習授業校に勤務すると、政治やビジネス、研究などでいかに多くの日本人が海外で活躍をしているのかを肌で感じることができます。グローバルという言葉がこれほどふさわしい場所もそう多くはないでしょう。それだからこそ、本校に通う子どもたちが将来、日本とアメリカ、そして世界の架け橋となる存在となることを願って責務を果たしたいと考えています。

平成28年度派遣 小野教頭 寄稿